

介助作業中の労働災害が多発しています！！

社会福祉施設の労働災害 令和元年：14名 足利署全災害の 9.9% を占めています。
令和2年：27名 足利署全災害の 16.8% を占めています。

足利署管内の「社会福祉施設」における労働災害は、近年、増加傾向にあります。令和2年は足利署監督署管内の全産業の約17%を占め、さらに、前年同期比で「13名」の大幅増加となっています。

管内では次の様な労働災害が発生していますので、働く皆さん一人ひとりと事業主が協力して、災害防止に努めて下さい。

職 種 性別・年齢・経験期間	災 害 発 生 状 況
介護職員 女・40歳代・5年	移動介助中、利用者の方を車イスから自動車の助手席へ後ろより支え中腰で抱えたため、腰部右側に痛みを感じた。さらに、駐車場から利用者宅玄関までの歩行中、利用者の方の躓きを支え、再び腰部右側に痛みを感じた。 (対策：作業姿勢の確認・徹底、腰痛予防措置(腰痛ベルト着用)など)
介護職員 女・30歳代・4年	利用者の方を送迎のため、利用者宅の玄関前に於いて、小走りで玄関に向かっている途中、玄関先のタイルが雨で濡れていたため、足を滑らせ転倒し、頸部、右肩、胸部、脚部等を打撲した。 (対策：行動面の注意(慌てず行動)、足元、環境の確認の徹底 など)
介護職員 女・40歳代・7年	入居者用浴室内脱衣所において、利用者をベッドから引き上げようとしたときに、密着して抱きかかえることができずに無理な体勢になってしまい、右手首を捻ってしまった。 (対策：作業姿勢の確認・徹底、腰痛予防措置(腰痛ベルト着用)など)
介護職員 女・20歳代・1年	居室において、オムツ交換するために、右下を向いていた利用者の体位を両手で上向きに変更しようとした際、思った以上に体重がかかり腰部を負傷した。 (対策：作業姿勢の確認・徹底、腰痛予防措置(腰痛ベルト着用)など)

上記の災害事例のほかに、

浴槽の清掃中に手を滑らせ、腰部に負担がかかり痛みが生じた。

訪問宅に向かっている途中、信号待ちの車両に追突した。

などの、様々な災害が発生しています。

皆さんの職場では、介助作業中において身体への負担による負傷などの災害が最も多発していますが、上記表の災害防止の基本的対策をはじめ、**腰痛予防体操の導入**、**身体的な負担を軽減できる作業方法の検討**など、労使が一丸となって災害防止にお取り組みいただきますようお願い致します。